第７回 鶴川西地区新たな学校づくり基本計画検討会　議事録

開催日時		2022年8月29日（月）　９：２９～１１：１３
開催場所		町田市立鶴川第三小学校　１階視聴覚室
出席者 (敬称略)	委員	豊田範子、杉山由香子、平城聖子、前田美和子、北川もと、竹村礼子、田中昭光、大隅明、仲村清彦、浅沼秀作、◎鰺坂映子、井上正義、〇悴田隆良 （◎会長　〇副会長）
	事務局	指導課、教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、 保健給食課、教育センター、企画政策課、防災課 （受託事業者） 梓設計
傍聴者		０名

議事内容（敬称略）

１　第６回基本計画検討会の振り返りについて

新たな学校推進課　（資料１説明）

２　学校の統合と学区の再編に伴う学区外通学について

学務課　（資料２-１～資料２-２説明）

会長　この内容について、不明点や質問、ご意見などはあるか。

委員　町田市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方という資料があるが、この中で通学時間及び通学距離について、通学距離の許容範囲を徒歩でおおむね２km程度を目安としている。今回の資料２-１では、２kmではなく、1.5kmとなっているが、短かくしたということは、何か意味があるのか。私は２kmで問題ないと思っているが、どうして1.5kmとしたのか。

学務課　1.5kmの距離の設定については、従来行っている通学区域緩和制度で、小学生の通学費補助の対象になる距離となっている。この通学距離の配慮というのは一番近い学校に徒歩で行けるようにという配慮の想定をしているので、徒歩圏内ということで1.5kmを採用している。

委員　鶴川西地区、東地区だけではなく、これから先の統合に適用するために設計した制度ではないかと思う。鶴川第三小と鶴川第四小の場合は、例えば鶴川第三小に子どもたちが通学することになるが、真光寺からこっちへ1.5km以上ある。が、真光寺の奥に住んでいる子どもは、隣接校となる学校がどこもない。なので、一般論としては理解したが、鶴川地区に置き換えて、例えば、地図で1.5kmの円が描いてあり、鶴川第三小に統合される場合にはここの地域が対象になるとか、鶴川第四小の位置に新しい学校が完成した場合にはこの辺が対象になるというようなことを次回や何かのときに示してほしい。

委員　1.5kmというのは、円を描いてその圏内ということか。直線距離になるか。道路は直線ではなく、曲がってる場合、厳密に測れば1.5km以上になる場合もある。車の通行状況も関係してくるが、このような配慮はどうするか。

学務課　　1.5kmの計測は、通学路等を通ったことも想定した上での実測になる。なので、円周で切るということはない。

３　学校統合に伴う避難施設機能について

防災課　　（資料３説明）

会長　　この内容について、不明点や質問、ご意見などはあるか。

委員　　避難場所について、この辺りは団地がとても多く、団地に住んでいる人は、団地が崩れることはほとんどないため、避難場所に来ないようにと言われている。そのため、町田市や色々なところに要望を出し、各団地の集会所、集会施設を避難場所に指定してほしいと言っているが、一般住宅の会館もまとめてというふうに混同されてしまって、なかなかオーケーが出ない。団地に限っては、「避難所に来ないで」と言われているため、せめて各団地の集会施設を避難場所にしてほしい。

委員　　関連で。今、団地の集会所のことを言われたが、町内会の会館について、例えば真光寺の町内会館ですと、鶴川第四小よりも防災の設備はいいので、団地の集会所だけではなく、それぞれの実情に応じた集会所等を避難所にしてほしい。

防災課　　団地が崩れない場合、防災課としても、自宅避難を推奨している。学校に逃げるのは、最終手段と言うか、どうしてものときの場合に逃げてもらう周知をしている。学校に来ても、プライバシーが守れなかったり、物品が最低限しかそろっていなかったり、色々な環境面で、ご自宅で避難するほうが環境面としても良い。総合的に考えると、できれば自宅避難を推奨している。

団地等の、自治会館等の避難施設にする件は、持ち帰り、ご意見が出ているということを共有し、今後に生かしていく。

委員　　この地区の実態として、防災課が地区の実態ということをよくつかんで、その実態に合った計画を立てていただきたいというのが一番の願いとなる。この地区の実態で、例えば鶴川一丁目から六丁目まで５歳別に年齢構成を見ていくと、鶴川三丁目のピークは45歳から49歳となる。が、すぐ隣や何かの町内会・自治会は80歳から84歳がピークとなる。

それから、避難所のことで思ったのは、そういう避難しなきゃいけないような大災害が起きたら、つるっこや、鶴川市民センターの前にあるふれあいいちょう館は休館になる。その場所を避難所にして、町田市の職員がいろいろ面倒を見るというようなことも考えてほしい。

避難施設の運営を町内会・自治会にある程度役割を担って欲しいと言うのであれば、町内会や自治会がまとまりやすいよう、教育委員会もぜひ考えてほしい。

委員　　今年度、私が住んでいる町内会では自主防災に力を入れることにして、とても多くの知識を得ている。その中で、災害時要支援者に対応することで町田市の方が動いているという情報を得ている。また、避難の施設に決められている場所だけではなく、要支援者のみを集めるような施設を市の職員並びにそういう対応をする方が対応することになっていて、自分たちでまず身を守るのが前提なので、自宅が大丈

夫な方はとにかく自宅で、町内会としても区や組で防災に励むし、動ける人は個人個人で災害時ボランティアに登録をし、動くような活動に向かって、今、推進している。

このことから、町内会ごとにいろいろと差はあると思うが、まずは小さな組織から何ができるのかを考えてもらい、市もこのような動きをしているというのは町内会で話を聞いているので、そのうち周知されると思う。まずは自分たちの身の安全、それから家族の安全、そして地域の安全という順番も決めているはずで、そこのところは大丈夫ではないかと思う。やはりたくさんの人が押しかけてきて人口密度が増えた場合、どうするかという懸念点もあるが、避難施設として、鶴川地区は結構多いので、適切に避難できると思う。

防災課　先ほどの要配慮者の件は、個別計画を組もうと取り組んでいる。要配慮者が１万名近くいるが、それを一人一人個別に、どういうふうに逃げていくとか、どういうときに避難するという計画を作成するため、一気に計画することができないが、進めていく。

震災時に閉館する施設の話しは、資料で触れていなかったが、民地や空き地については、資料の項番1(2)や項番2 (2)で記載されている。風水害もあるため、屋内避難が基本的な形になるが、例えば公園にテントを張り屋外避難を想定している。市では今年度中に屋外用テントを960張り購入する予定としている。また、子どもセンターつるっこや国士舘大学のグラウンドが鶴川第四小の近くにあるので、こういったところを開放できるようにしていきたい。

年齢構成についての考慮の件は、もちろん考慮はするが、災害はいつ起こるか分からないため、年齢構成も、当てになるところとならないところがある。夜間と日中で年齢構成は変わる。市で全部できればいいとは思うが、実際にそれはできにくい。なぜかというと、市の職員もすぐ行ける場所にいればいいが、遠くにいる場合や、職員が怪我をしてしまって行けないとか、そういうこともあるので、連絡会等でも依頼しているが、始めに地域の方で鍵開けをやっていただくとか、そういったところを共助で助けてもらい、進めていければと思っている。できないと逃げるつもりはないが、地域の方でできる範囲で、実行に移ってもらえると助かる。

４　新たな学校の避難施設機能について

委託業者　（資料４-１及び資料４-２説明）

〔　ワークショップ　〕

グループＡ　こちらのグループでは、この地域は町内会がしっかりしており、それぞれ個別に避難計画があるため、学校に避難してくる人は少数になることが想定されるという意見があった。どんな方が避難してくるかというと、町内会の活動に参加されていない方とか、そういった方の受け皿として、学校の避難所が使えるといいというよ

うな話しがあった。あと、例えば、各町内会で運営されている避難スペースに個別に物資の搬入というのはなかなか難しいため、ある程度、学校が拠点になって、そこに物資が届いて各町内会の方が取りに来るとか、そういった運用というのはあり得るという話しが大前提としてあった。

また、学校のほうで受け入れた避難者に対して、学校の避難所機能としては、うまく学校の機能を使って、特別なものを設けるということではなくて、そういった避難所運営ができればいいという意見があり、体育館ゾーンを避難所として使えれば十分で、特別教室は、セキュリティーの関係もあるため、そこまで拡大していく必要はないという話しがあった。あと、避難所に避難してくる方で乳幼児の方がいたら、授乳スペースやパーソナルなスペースが必要であるとか、停電対応、発電機、蓄電池を備えたほうがいいという意見もあった。

あとは、避難してくるルートとか避難所の安全性というところで、この辺りは大きな木が多いので、倒木とかそういった心配もあるという話しがあった。

グループB

全体に関するハードは、避難してきた後、外からの物の出し入れがしやすい施設を整備し、体育館の入り口や昇降口の開口を広く取り、物の出し入れがしやすい構造にしてほしく、人が避難してきたときに使いやすいようにバリアフリーをきちんと整備してほしいという話があった。また、意見が分かれたのが、給食室など使えるような施設は使えるようにプロパンガスを整備して欲しいという意見がある一方、学校側の立場としては、学校の機能としての仕様に統一するならするというような、災害によって開放の範囲を明確にしてほしいというような意見があった。また、全体の設備について、簡易的な操作で誰でも使用できるような、また作動するような施設やグッズを配備してほしいという意見がでた。

また、個別な設備は、ほかの地域では、地下倉庫を整備していることがあることや、初期避難時は、夜間照明が足りないことが多く、夜間照明の確保、また運営時にコンセントや、外からの利用も考慮した充電設備などをきちんと配備してほしいという意見がでた。また、倉庫も、現在は防災倉庫として校舎の北側に40㎡程度取っているが、飲食物等のように保存が難しいもの、大事になるものについては、校舎の中できちんと管理するようにしてほしいという意見があった。校舎内と外と倉庫を分けるような計画の仕方がよいのではないかという意見があった。また、意見というか付箋で貼ってあったものを見ていきますと、グラウンドの水はけの整備、排水機能をきちんとするべきという意見もあった。

そして最後に、ソフトの観点からですが、避難所の開設場所や、災害規模によって決められているルールの周知がされていないという意見があった。東日本大震災のときに避難してきて、受け入れてもらえなかったことなども踏まえ、きちんと災害や規模によって避難場所がどこに設置されているか周知することも大事という意見が出た。

５　鶴川西地区の新たな学校名の選定について
新たな学校推進課　（資料５-１及び資料５-２説明）

〔　ワークショップ　〕

グループＡ　　新しくできる学校の位置から、鶴川中央小学校という意見が多く出ました。鶴川全域では、鶴川の西ではないという意見から、鶴川の真ん中に位置するということで「鶴川中央」が出ました。位置というところでいうと、鶴川東地区の統合の学校名が「鶴川東小学校」にするのであれば「鶴川西小学校」、学校の位置でいうと、「鶴川中央」と「鶴川西」というところが意見で出た。

意見をもらった名称としては、「鶴川」が入っている学校名がいいんじゃないかという意見があり、「真光寺」などのように1つの地域に特化した名称にすると、広袴地域から通う児童がいるのに配慮に欠けるという意見もあった。

あとは、鶴川〇〇小学校の〇〇が「自然」の意見。イチョウや桜のような植物、樹木の名前を入れるというのも良いという意見があった。「イチョウ」は鶴川第三小から鶴川第四小にかけてイチョウ並木があるというのと、「桜」は、鶴川第四小の桜がきれいという意見があった。また、地形的に「谷戸」を名称のしりという意見もあった。

グループＢ　　学校名として、多かった意見は、「鶴川小学校」というご意見、あと「鶴川西」というのもあった。そのほか、「鶴川令和」や「鶴川中央」あとは「鶴の台」をなくすとしたら鶴の台という名称を残すといった意見も出た。

また、鶴川小学校については、鶴川の西側なのかというところから出発し、鶴川第一小が野津田町にあり、鶴川第二小が能ヶ谷にあることから、ナンバースクールはやめ、住所的な「鶴川」というところにある学校という意味で、鶴川というのがいいのではないかというような意見が出た。

あとは、全体的なところで、分かりやすいやストレートに表現されているなど、外の方にとってどこにある学校というイメージがしやすい名前というところで「鶴川」をつける方が良いという意見も出た。

６　第７回基本計画開催概要
新たな学校推進課　２０２２年９月２６日（月）９時３０分～鶴川第四小学校を予定